



くびきざんげい

## 頸城山系におけるライチョウの保護について

妙高高原自然保護官事務所 佐藤 直人

妙高高原は、上信越高原国立公園の北部に位置し、日本百名山の妙高山、火打山、雨飾山などをはじめとして、日本の滝百選の苗名滝や惣滝、日本の紅葉百選の笹ヶ峰高原など、多種多様な自然を有しています。また、国内有数の豪雪地帯としても有名で、冬場は大勢のスキー客で賑わうとともに、一年を通して大勢の温泉客が訪れます。



天狗の庭からの火打山(左手奥は焼山)

さらに、頸城山系の中心に位置する火打山、焼山付近には、日本最北限のライチョウ個体群が生息しています。ライチョウは、生息個体数が全国で2000羽を下回っていると推定されており、環境省レッドリスト(2006)において絶滅危惧Ⅱ類に掲載されるなど、近い将来の絶滅が危惧されています。中でも、頸城山系の個体群は、その個体数が20～30羽と非常に小規模であることから、特に絶滅のおそれ指摘されている個体群となっています。

そこで、環境省では、今年度から、頸城山系ライチョウ個体群の生態把握を目的として、生息状況及び生息環境についての調査を開始しました。これまで不明な部分が多かった本地域のライチョウ個体群の生態を把握することにより、個体群の保護対策を効果的に進めていきたいと考えています。



ライチョウの親子(火打山)

また、環境省以外の機関においても、頸城山系ライチョウ個体群の保護に向けて様々な取り組みが進められています。林野庁では、昨年度、頸城山系の山頂付近をライチョウ保護林に指定し、地元の国際自然環境アウトドア専門学校では、北アルプスなど他地域との交流の可能性について調査を開始しています。

環境省としては、これらの機関と連携協力しながら、今後ともライチョウの保護に努めていきたいと考えています。

## Focus

### 「食品残さのリサイクルから地域循環圏を考えるシンポジウム」を開催しました!

中部地方環境事務所は、地域の特性や循環資源の性質に応じて最適な規模の循環を形成する「地域循環圏」づくりを進めるための施策を展開しています。

この一環として、3月24日に名古屋市でシンポジウムを開催しました。このシンポジウムでは、食品残さの地域循環圏づくりのための講演や先進事例の紹介に引き続き、パネル討論会を実施しました。討論会では、小売業者、農業者団体、たい肥化事業者及び消費者のそれぞれの立場から、食品残さのリサイクルについての取り組み状況が報告され、現在抱えている課題や今後の取り組みの方向性について議論されました。

また、討論会の最後には、今後、この問題を考える協議会を設置し、より深く検討していくこととしました。



### 不法投棄撲滅をめざして!! 「全国ごみ不法投棄監視ウィーク」の取り組み

環境省では、不法投棄を発生させない環境づくりを更に強化するため、5月30日から6月5日までの一週間を「全国ごみ不法投棄監視ウィーク」として設定し、国、自治体、市民などが連携した監視活動や啓発活動を実施しています。

中部地方においては、愛知県及び名古屋市が実施する「あいち・なごやクリーンアクション for COP10」とタイアップした三の丸庁舎周辺合同クリーンアップ活動を中部地方不法投棄対策連絡会(事務局：中部地方環境事務所)として実施したほか、藤前干潟「春のクリーン大作戦」、ヘリコプターによるスカイパトロール、廃棄物収集運搬車両の路上検査、不法投棄監視通報システム(監視カメラ)の設置、不法投棄防止を呼びかける看板やポスターの設置、PRグッズ(うちわ)の配布など、様々な監視や啓発活動を集中的に実施しました。



三の丸庁舎周辺合同クリーンアップ活動の様子